

【人材の養成に関する目的】

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

■文学部

文化現象の総合的理解及びその継承を基本理念とし、その実現のために、少人数教育を基本とする教養教育及び専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力及び多面的な分析能力の伸長を図ること、並びに言葉を通して形づくられた人間、歴史及び社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力及び自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することを目的とする。

■日本文学科

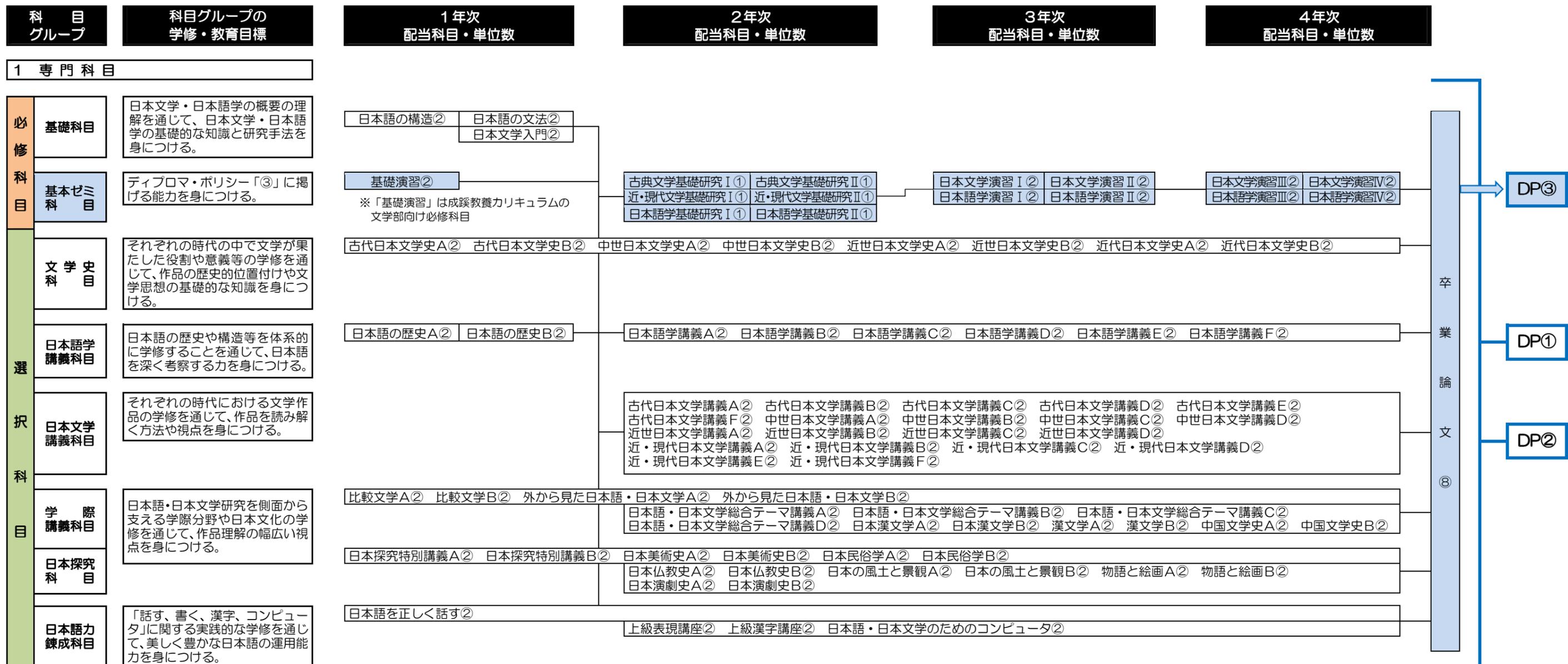
- ア 日本語及び日本文学を学ぶことを通して、高度で柔軟な日本語運用力を身につけるとともに、日本人及び日本文化についての幅広く体系的な教養及び深い理解を獲得し、それらを社会生活において有効に活用しつつ、次の時代に受け渡すことのできる人材を養成すること。
- イ 多様な国際社会の中で、自らの文化的特性に立脚しつつ自立的に行動できる基礎的な判断力及び自らの思いを積極的に伝えることのできる豊かな表現力を備えた人材を養成すること。

文学部では、1年次から指導教授制をとり、4年次における卒業論文（全員必修）の作成まで文学部全体としてきめ細かな履修指導を行っている。また、学部として成績評価のガイドラインを設け、各授業科目については、定期試験、レポート、授業態度、出席状況等を総合的かつ厳正に判断しながら成績評価を行っている。このようなきめ細かな履修指導と厳正な成績評価に基づき、文学部が目指す質の高い学生を社会に送り出すよう努めている。

このもとで、多様な価値観が並存し、対立し合っている現代社会を生きる上で必要となる、柔軟な知性と批判精神、すなわち次に掲げるような総合的な「資質と力量」を身につけ、国際教養人として課題を発見し解決する能力を修得した学生に、学士（文学）の学位を授与する。

- ① 日本語及び日本文学を学ぶことを通して、高度で柔軟な日本語運用力を身につけるとともに、日本人及び日本文化についての幅広く体系的な教養及び深い理解を獲得している。
- ② 多様な国際社会の中で、自らの文化的特性に立脚しつつ自立的に行動できる基礎的な判断力及び自らの思いを積極的に伝えることのできる豊かな表現力が備わっている。
- ③ 各年次に配当された必修の「演習」及び卒業論文の作成を通じて、批判的・論理的思考力、課題探求・問題解決力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけている。
- ④ 選抜制の「国際社会コース」の修了生は、必修のセミナーにおいて、「日本を考える」、「現代の世界」、「文化と人間」、「地球を考える」の4つのテーマの学修を通じて、国際化する社会についての知識と洞察力を身につけるとともに、英語によるコミュニケーション能力及び情報発信能力を身につけている。

※ 教養科目については、「成蹊教養カリキュラム：学修・教育目標（科目グループ別カリキュラム・フロー）」を参照



科目グループ	科目グループの学修・教育目標	1年次 配当科目・単位数	2年次 配当科目・単位数	3年次 配当科目・単位数	4年次 配当科目・単位数
2 自由設計科目（選択科目）					
文学部 共通科目	トピック・セミナー	トピック・セミナーA ② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②			
	e-Learning English	Grammar Practice I ① Grammar Practice II ①			
	古典語の世界	ラテン語 I ② ラテン語 II ② 古典ギリシア語 I ② 古典ギリシア語 II ②			
	国際社会コース	※ 国際社会コースを修了するために必要な講義科目については、履修要項参照。	国際英語セミナー I ② 国際英語セミナー II ② 国際社会セミナー I ② 国際社会セミナー II ②	国際英語セミナー III ② 国際英語セミナー IV ② 国際社会セミナー III ② 国際社会セミナー IV ②	
	国際社会研究		国際社会研究②		
	文学部総合講義	文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②			
単位認定科目	資格課程認定単位	教育原論 I ② 教育原論 II ② 教育心理学② 教育史② 生涯教育研究②			
	留学関係認定単位	海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②			
	全学共通科目超過単位				
学際科目	他学科・他学部・他大学	（他学科の専門科目、他学部の専門科目及び単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位）			

